

右近ゆかり 寺でミサ

戦国時代のキリシタン大名・高山右近(1552〜1615)が生まれた豊能町の高山地区の寺で19日、右近のためにキリスト教のミサが開かれる。2015年の没後400年を前に、右近をテーマにした町おこしを考える地元住民と、右近に対するカトリック信者の思いが結びついた。

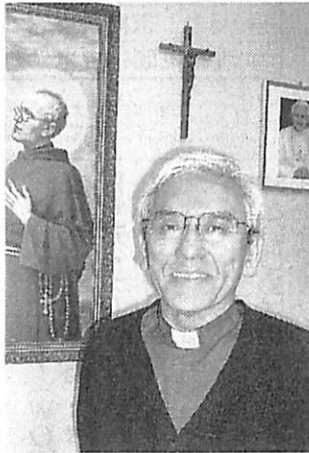
高山右近は高山地区の有 力者だった父の影響でキリシタンになり、城主となった高槻で領民にキリスト教を広めた。江戸時代のキリシタン禁教令で国外追放され、フィリピンのマニラで1615年に亡くなった。日本のカトリック中央協議会は、弾圧を受けながら

19日、豊能・高山地区



生誕地 地域おこしに

神に一生を捧げた右近に、信仰の模範となる信者を示す「福者」の称号を贈るよう、ローマ法王庁に働きかける列福運動をしている。豊能町に近い兵庫県猪名川町のカトリック日生中央教会の信者たちも、右近について勉強会を開いており、その一環として右近の生誕地にあるキリシタン関係の史跡巡りを企画した。信者らから史跡巡りのガイドの依頼を受けた豊能町の観光ボランティアガイドの上山秀雄さん(64)は、知人ら二十数人と、右近の没後400年を機に地域おこしに取り組む準備をしていたところだった。「せっかく来られるのなら」と、信



☉西方寺の目下部真雄副住職。後方はミサが開かれる本堂。豊能町高山のミサを開く畠基幸神父。兵庫県猪名川町

者に右近ゆかりの西方寺で列福を祈願するミサを開くことを提案。同寺の目下部真雄副住職(51)も「寺は地域に根ざしたものだ。右近の生誕地を縁に外の人が入り出すことで、地域おこしにつながればうれしい」と引き受けた。

右近と父がキリシタンになったのは、すでに高山を離れて奈良の沢城にいた頃だが、高山に残った祖母もキリシタンになり、当時、キリスト教の小聖堂があった西方寺で祈りを捧げたという。小聖堂の跡は残っていないため、ミサは本堂で日生中央教会の畠基幸神父(60)が開き、同教会の信者ら約40人が参加。目下部副住職も見守る予定だ。

畠神父は「仏教の寺でミサをするのは初めてだが、かつて信者らが祈った場所で私たちがミサをすることに、天国にいる当時の人たちも喜んでくれると思います」と話している。ミサは午後3時10分から4時ごろまで。本堂の外から見学できる。(八田智代)